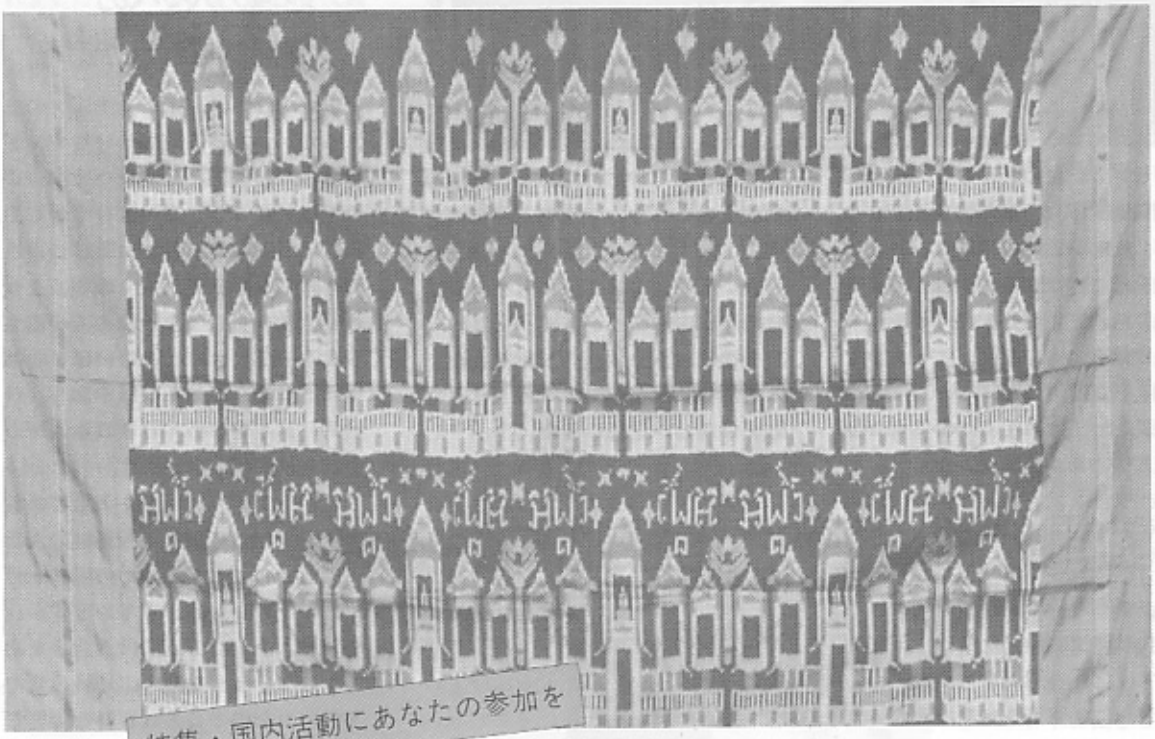
CYRニュース No.19

幼い難民に未来を

発行：幼い難民を考える会　〒150 東京都渋谷区広尾4-3-1　TEL 03-499-1226　●振替口座　東京1-36227



カオイダンキャンプで織ったアンコールワットの模様の壁かけ。CYRの織物教室では、このほかクローマー、サロン、肩かけ等を作っています。

特集・国内活動にあなたの参加を

カンボジア語による 電話相談7月からスタート

国内プロジェクトの一つとして、春から準備を進めていた〈母国語による電話相談〉を7月7日から始めました。

カンボジア、ベトナム、ラオスの各国の人達が、それぞれの母国語で相談できるシステムを目指していますが、今回開始したのはカンボジア語による電話相談です。

相談にのっているのは、ミム・ソワンさん。ソワンさんは、幼い難民を考える会（CYR）が、タイのカオイダンキャンプで行なっている保育者養成の第1期卒業生で、9人の子どもの母親でもあります。

7年前に家族20人と共に来日、都内港区に住んでいます。日本の事情にもある程度慣れ、CYRのことも知っているということでお願いしました。

今まで女性と子どもの問題を手がけてきたCYRとしては、子どものしつけ、教育問題、健康、結婚、離婚など、特に女性の悩みに応えられるようにしたいと考えています。

日本にいるカンボジアの人たちにはカンボジア語で案内状を送り、相談専用の電話を広尾のCYR事務所に設置しました。

電話相談は
毎週火曜日・木曜日
午前10時～午後4時
03－499－5524
で受け付けています。

この曜日以外、あるいは時間外の相談はソワンさんの自宅で受け付けています。

また、送った案内状の何割かは戻ってきているため、新しい住所の確認も並行して行なっています。これは日本に定住しているインドシナの人々がかなりの頻度で引っ越しをす

◀相談を受けるミム・ソワンさん。

ることが多いためで、どこの民間の難民関係団体も、最新の住所リストをつくれないのが実情です。

相手のことを知らず、顔が見えないから電話で相談がしやすいと、一般に日本人は考えます。でも、同じような感覚をもったカンボジアの人が、果たしてどれくらいいるのか正直なところわかりません。

電話相談だけで、すべての問題を解決することも、もちろん不可能です。しかし、孤立して、話し相手もいない人達にとって、少しでも支えになればと考えています。

今後はベトナム語、ラオス語による電話相談も受け付けられるようにしていきたいと思います。

訪問ボランティアを組織化

今まで個人的に在日インドシナの人たちの相談にのったり、日本語を教えていた「訪問ボランティア」の活動を、より充実させるために体制を整えています。

個人的に活動していると、その人の都合で訪問が途絶えてしまうことがよくあります。この弊害をなくすため、また個人では解決しにくい問題が起きた場合にも対応できるようにするため、組織的に取り組みたいと思っています。

そのためにまず、5月から月1回訪問ボランティアの定期的な集まりをもっています。訪問ボランティア間の横のつながりをつくり、情報交換をするのが目的です。

また、訪問ボランティアの人には訪問の都度、報告書を提出してもらい、担当者が変わっても経緯がよくわかるようにしています。

現在16人の訪問ボランティアが、約50家族を訪ねていますが、CYRではインドシナの人々が多く住んでいる神奈川県、埼玉県、大阪府、兵庫県に重点を置いて、活動を広げていきたいと考えています。そこで

訪問ボランティア大募集

◎特に神奈川、埼玉、兵庫の各県、大阪にお住まいの方、あるいは東京、他県でも継続して活動できる熱意のある方

◎できれば週1回程度活動できる方（土、日に日本語を教えてほしいという要望が多いのです）

◎月1回、訪問ボランティアの打ち合わせに出席できる方

☆訪問時の交通費は会が負担します。

訪問ボランティアご希望の方は事務局までご連絡ください。

地域の人々への積極的な働きかけを

今のところ訪問ボランティアのほとんどが、1、2時間かけてインドシナの人の家庭に通っています。これでは長続きさせるのもむずかしく、何かあったときでもすぐ駆けつけることができません。「遠くの親戚より近くの他人」です。地域の人が協力者になってくれれば、これほど心強いことはありません。日本語も、日常的に話しかけてくれる日本人がいれば上達が早いはずです。

CYRでは訪問ボランティアの数を増やすだけではなく、地域の人たちに協力してもらうための働きかけをしていきたいと思っています。

日本人同士でも近所付き合いをあまりしなくなった昨今、地域の人たちの協力を得ることは容易なことではないかもしれません。しかしそれも、やってみなければわかりません。どうやって地域の人を巻き込むか、それはあなたのアイディア次第。知恵をおおいに出し合いましょう。

定期的に訪問するのが無理でもアイディアを出すことはできるのではありませんか？

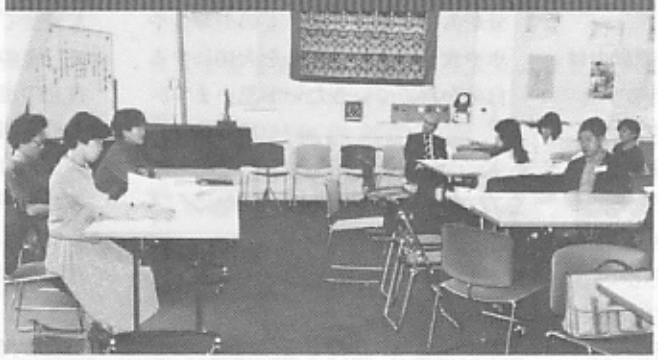
理想は訪問ボランティアの必要がない地域社会です。その実現のためにあなたの参加を待っています。

§「訪問ボランティア」に代わる新しい名称を募集しています。わかりやすく、親しみがもてるよい名前はありませんか？

なお、国内プロジェクトには、ジャパンタイムズと全国老人クラブ連合会から、それぞれ100万円の助成金をうけています。

社会への橋渡し役を

――第７回総会より――



５月17日、第７回定期総会が開かれました。その中からいいぎり代表のあいさつ（一部）と、午後の部の討論会「自立のための援助を考える」でのいくつかの意見をご紹介します。

☆いいぎり代表のあいさつ

いいぎり代表は国内の活動について「日本に定住しているインドシナの人たちが日本社会に馴染めないということは、私たちの中に閉ざされた部分があるからではないでしょうか。その閉ざされた部分を開くために、私たちは日本に来られたインドシナの人たちとの間に立って、日本社会に向けての橋渡しをする必要があると思います。それは相手に“してあげる援助”ではなく“一般の人たちに訴えていく”という働きかけです」と、これからの会の指針を打ち出しました。

☆討論会「自立のための援助を考える」より

「カオイダンキャンプの中では経済的自立はあり得ませんから、難民の人たちが自分で考えて仕事を進めていくことが自立という意味ではいちばん大切だと思います。

難民だからといって必要な物をすべてもらうというのではなく、なくてもほかの物を代わりに使うことができないか、そういう工夫をする姿勢を保ってほしいと思っています。私たちは、手をさしのべる前に相手に考える時間があったか、工夫の余地はないのか、十分に検討するように努めています。」

「日本人の理解を得るのは、一人でがんばっていてもできません。私はカンボジア人と一緒に遊びに行くとき、日本人の友だちを誘うようにしているので、今では友だちの輪がずいぶん広がっています。援助といっても、物質的なものではあとに残りませんけれど、友だちとしてずっと付き合っていくとお金では買えないものが得られます。信頼関係がなければ心を割って話すことはできませんから、細く長く付き合いを続けていくことが大切だと思います。」

「付き合う場合、その人の祖国がどういう状況であったかを知ることは必要だと思います。差別というのではなくて、相手の背景や、立場を頭に置いておかないと、日本人とまったく同じにはいかないでしょう。」

「定住者のＡさんは、日本人に仕事も家も提供してもらい、支度も全部してもらいました。そのＡさんが、しばらくしてから“車を買うから車庫証明がほしい”と言いだしたのです。世話をした日本人はとてもびっくりしました。難民だから車なんか必要ない、というのではないけれど、やっぱりおかしいと。でも、いったいどういえばいいのか、むずかしいですね。」

「あるベトナム人の家庭でご飯をご馳走になったとき、お母さんだけ一緒に食べませんでした。私たちが食べ終わると、お母さんは同じお茶碗を使って食べたのです。その時初めて、お茶碗が家族の分しかないことに気がつきました。そこで瀬戸物をあげたのがきっかけで、物質的な援助もするようになりました。」

「難民への寄付の品物を見ていると、同じ日本人として恥ずかしくなるような物があります。ボタンをとった背広、片方だけのくつ下など、難民だからいいのかと思ってしまいます。」

「日本人には、日本の中で当たり前なことは外でも通用するだろうという、思いこみがあります。インドシナの人たちの考え方、見方が日本人と違うという驚きや戸惑いも、こういう見方もあるんだというように転じると、視野が広がるのではないでしょうか。それが国際化への第一歩だと思います。」

国内の活動が本格的に始まると、多くの人が物質的援助の問題にぶつかることが予想されます。

今回の討論会では、何が、どうすることが自立のための援助になるのか結論は出ませんでした。これは簡単に結論が出るものではありませんし、それぞれの人が試行錯誤をくり返しながら考えていくべきものと思います。

また、つい便宜上使ってしまう“援助”という言葉そのものも、問い直さなければいけないと思っています。

スライドやビデオを使って会の活動をPR

会員のなかには、CYRの保育センターを紹介したスライドやビデオを使って、会の活動を会員以外の人たちにPRしている人もいます。

岡山の会員成澤貴子さんと内藤敦子さんは、これまで何回か岡山県内の各地で報告集会を開いています。5月23日には"カオイダン難民キャンプ報告集会"がありました。そのときの様子と参加者の感想をご紹介しましょう。

タイで7年間活動しているCYRスタッフの関口晴美さんと、CYR代表のいいぎりゆきさんを招いて、岡山YMCAにて現地報告会を開きました。10名集まればと思っていたのに、60名以上の参加があり、うれしい誤算でした。

関口さんにいちばん聞きたかったことを質問しました。

「現地の仕事を続けられる原動力は何ですか？」と。

答えはちょっと意外でした。

「この仕事が面白いからです。」

滅私奉公でも、悲壮な使命感でもないようです。だから続くんですね。いいぎり代表は次のようにいいました。

「自分の考えと、他人の考え（国と国も）は違います。その違いを大切にしたいものです。"してあげる"援助はもうやめ、日本という穴から首を出して、世界の中の日本を見直してみませんか。」

私は地方に住む専業主婦です。会費を払い、CYRニュースを読むだけの会員でした。日本の穴どころか、家庭という井戸の中で働いているのです。でも大事なことは、カンボジアの幼い難民の人たちと、自分の暮らしを重ね合わせてみることだと思うのです。日本人だけ「もっと便利に、もっと速く、もっとたくさん」と大量消費文明に浮かれに浮かれて、5年後も10年後も今の生活が続くと思うのは傲慢すぎるのではないでしょうか。

スライドで見たカンボジアの幼い人たちはかわいい。2歳のわが子と共にいる日常の中で、難民の彼らと分かちあえるように、ものやお金や水や食べ物や、人の心を大切にする自分を育てていきたいと思います。

（内藤敦子）

カオイダン難民キャンプ報告集会に参加して

高木唱洋

この集会に出席して初めて、「幼い難民を考える会」という運動体があることを知りました。

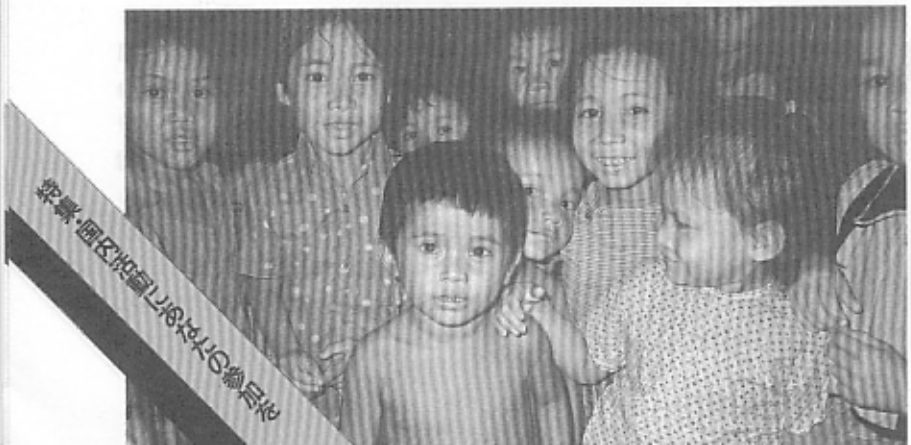
ニッパヤシで作られた建物の前のよく手入れの行き届いた野菜畑――この冒頭の1枚のスライドは、このキャンプの生活を私に印象づけるのに充分でした。そして、子どものための教育、母子衛生教育、洋裁、機織りなど、自立を進めるにあたって、キャンプの現実と民族の伝統をしっかりつかむという基本姿勢がよく理解できました。

経済大国日本の、開発途上国への無償援助は、確実に増額されています。それが相手国の奥地から木材、鉱石、農産品を搬出するための道路、鉄道、橋や港湾施設に使われていて、結局は日本のために使われているという批判もおきています。そして、この無償援助というのは、相手に供与することなので、わが国の国会でなんら中身について審議されないで肥大化している点でも問題があるといわれています。

これに対し、今日、この会のように国際的な活動をするいろいろな民間団体があります。自分たちで集めた資金で、自分たちが出かけていって、その現地の人々と一緒になって自立の道をさぐる活動をしています。その遠回りした分だけ、そのささやかな分だけ、見せかけやおしつけがましさがなく、野の花のように1度その地に実を結べば、確かな人間の連帯を生みだしてくれます。

アメリカに次いで、多くの国連分担金を出している日本。これは世間体を気にしての、建て前としての支払い金。民間団体等の活動に払っている日本人のポケットマネーは、コンマ数パーセント以下というのが現実。ここらあたりが日本人の本音としての国際感覚ではないか――。これは私も関わっているアムネスティインターナショナル日本支部（人権を守る国際機構）での話です。

でも数年前まで、私も国際感覚行動ゼロでした。自分のできることを少しでも、と思っている昨今です。



子どもたちに ビデオを見せて

学校の先生で、子どもたちにビデオを見せている会員の方もいます。神奈川県の公立小学校で先生をなさっている平野由美子さんは、小学校6年生に見せたそうです。

まず私のビデオの感想を申しあげます。

百聞は一見にしかず。私は、この人たちの世界を今まで何も知らなかったのだということを痛感いたしました。住居、服装、音楽、楽器、遊び、布の色合い……およそこの人たちの文化を、私は知らなかったのでした。でも、子どもたちの顔のなんと私共の子どもたちと似ていることでしょう。そして、表情のなんてかわいらしいこと！　子どもは生まれながらにしてみな平等のはず。どこの国の子どももみな大事であるはず。それなのに……CYRの活動の大切さをしみじみ感じました。

初めてビデオを見たときには、映像と音楽に引き込まれていってしまって、難民の歴史はほとんど耳に入りませんでした。6回目、7回目には、説明がよくわかりました。映像は、平和なキャンプの様子を写していて、説明なしでは、なぜ私たちが、この人たちのために何かをしなくてはいけないのか、それがわかりません。ほんとうに大切な説明だと思って聞いておりました。

保母さん、保父さんたちの勉強する熱心な姿や、大人の作業をまねる子どもたちの姿。美しい布のできあがる過程（あんなにも素朴な道具から生まれるなんて……）など、とてもよくわかりました。

小学校6年生には、むずかしい内容ではありますが、『ふるさとカンボジアは遠く』（ユネスコ協会編）などでカンボジアの歴史や、子どもたちのあの頃の状況などを補って、ビデオを見せました。

彼らの感想を送ります。

（平野由美子）

〈貸し出し案内〉

❖ビデオ『カオイダン保育センター 希望の家』（24分）

カオイダンキャンプの住まい、配給風景など暮らしの様子と、CYRの保育園、洋裁・織物教室、木工室の活動を紹介。

制作は、子どもを対象とした活動を助成しているオランダのバーナード・ファン・リア財団。

ナレーションは別カセットテープであります。

❖スライド

カオイダンキャンプでの生活、CYRの保育センター「希望の家」での保育、子どもの遊び、表情、保育者養成、技術訓練の様子等。20枚1セット。あるいはご希望により何枚でもお貸しします。

❖パネル（白黒、一部カラー）

81、82、84年撮影のカオイダンキャンプの様子、CYRの活動紹介、子どもたちの表情等。

パネル見本帳もあります。

子どもたちの感想

◇戦争をやったのは大人。それなのに、なぜ子どもまでかわいそうな暮らし、経験をしなければならないのだろう。

◇最初のほうでは、仕事をせずに配給だけ待って寝ているなんて“なまけてる”と思ったけれど、とんでもない。働くところも、住むところもないなんて、とてもかわいそうだ。

◇カンボジアのお年寄りは、きっと「死ぬんだったら、自分の生まれた国カンボジアで死にたい」と思っている人もいると思う。私も「もうじき死ぬでしょう」などと言われたら「生まれた土地で死にたい」と思う。

◇カンボジアの人は、いろいろ工夫して物を作る。その作った物をじょうずに使っていて、立派な人たちだと思った。

◇カンボジアの人々は、つらい目にあわされても、一生懸命働いて、明るくふるまっていてえらいなと思う。でもやっぱり人は自由がほしいと思う。

◇カンボジアの難民は、自分の国へ帰りたくても帰れません。自由な暮らしをしたくてもできません。それにくらべて、私たちは、なんてぜいたくなんでしょう。

※子どもたちの感想は、感想文の中から編集部が一部抜粋したものです。

ひまわりコーナー

〈グリーンセンターにピクニック〉

5月4日（月）　快晴

埼玉県川口市に住むカンボジアの人たちと一緒に、グリーンセンターで楽しい一日を過ごしました。

人がたくさんいるので、だれかが迷子になってしまうのでは、と心配していました。ところが心配無用。上の子が下の子の面倒をみる、友だち同士助け合うカンボジアの習慣があるため、はぐれることはありませんでした。

お弁当を食べた時ひとつ気づきました。私たちは普通リンゴの皮をむく時、ナイフを手前にすべらせますが、カンボジアの人は逆に向こう側へナイフをすべらせ、皮をむきます。同じことをするにもひとつのやり方だけではないことを知りました。「逆もまた真なり」

〈料理交換会〉

6月20日（土）　雨

日本料理とカンボジア料理の交換会を埼玉県のある団地の集会室で開きました。

メニューは、和食が炊き込みご飯、カンボジア料理が春巻に似たバウン・チャエル。おやつに子どもたちが喜んで食べるもののひとつだそうです。クレープの皮のようなものにひき肉や、えび、野菜をのせ、オムレツ風に仕上げます。それをひと口サイズに手で小さくしてレタスにくるみ、カンボジアのお醤油トットゥライをつけてパクリと食べます。

栄養のバランスがよく、おいしいバウン・チャエルを食べられたことに加え、あると聞いていたお釜やフライパンがないというハプニングに、快く自宅からいろいろと貸してくださった、お母さん方のやさしさに感謝しています。　（田中双葉／記）

※10月のひまわりの予定

10月17日（土）　生活の中の無駄とゴミを考える第3回。川口市のゴミリサイクル運動

ひまわりは毎月第3土曜日の午後2時～4時に原則として事務所で開いています。

竹の子通信

〈2か国語の子どもたち〉

みなさまお元気ですか。

今回は、大阪方面に住んでいる、ベトナム人の子どもたちのことを紹介しましょう。

4月中旬に"竹の子"の友人たちは、大阪の八尾市に住むベトナム人の子どもたち、そしてお母さんたちと、神戸の須磨離宮公園へピクニックに行きました。好天にも恵まれ、みんな十分遊ぶことができました。

昼食を終えた後、参加した6人の子どもたちのために「ベトナム語コンテスト」が開かれました。これは、ベトナム語の書き取りやベトナム語で歌をうたうものです。子どもたちの耳はよいですね。私にはまったく聞き分けられない発音も聞き取ります。ベトナムの地図も上手にかきます。"ちょうちょ"の歌のベトナム語版などは、とてもかわいらしいものでした。

このコンテストを考えたのは、ファン・タム・フンさんというベトナム人の青年です。彼は、八尾市の団地に住んでおり、日曜日の朝、この子どもたちにベトナム語を教えています。現在は、お母さんも加わり、書き方を教えています。

ファンさんやお母さんたちの心にある、母国語を大切にしてほしいという気持ちが、ベトナム語コンテストや日曜日の教室によくあらわれています。

秋になれば、子どもたちには学校、そしてベトナム語教室の新学期が始まります。この2か国語の子どもたちが、これから無事に成長してほしいと、私は考えます。

（中野能行／記）

さて、あなたは……？

現在、あるいは将来の希望も含めて、CYRの国内活動を紹介してきました。

さて、あなたはどの活動に参加したいですか？　一歩踏みだしてみませんか？

特集・国内活動にあなたの参加を

INTERVIEW

「カオイダンキャンプに居たとき、ボランティアの人々にかわいがってもらったのが忘れられなくて……今度は私が何か役に立ちたいと思って」——7年前、3か月間カオイダンキャンプで過ごしたチューダラレさん（19歳）は、今年の8月、今度は、CYRのボランティアとしてカオイダンに行き、通訳として大いに活躍してくれました。

「7年前に比べれば、住んでいる家は立派になっているし、緑も多くなり、畑では野菜を作れるようになったりと環境はよくなっています。でも何年もの間ずっとキャンプにいる人の中には『もうどうせ駄目だ』と諦め、疲れている人が多いですね。

キャンプに入って懐かしいと思ったけれど、それよりも、すごくかわいそうという気持ちのほうが強かった。何とかしてあげたいんですけれど、どうにもならないのがいちばん苦しい。7年前のほうが多分もっと生き生きしていたと思うんです。何とかしたい、勉強したい、第三国へ行くのに言葉を覚えたい……そんな思いがあったから。

キャンプには自由がありません。もちろん、キャンプの中を歩き回ることはできますけれど、外に出ることはできません。朝起きて、配給があると取りに行って、ご飯を作って食べて……昼はやることがないからボォーとしていて、夜になると寝る——そんな生活を6年も7年も続けていれば、精神的に疲れるし、落ち込んだ気持ちになるのは仕方がないかもしれません。

長い間キャンプにいる人たちもかわいそうですけれど、キャンプにもぐりこんできて地面に穴を掘って隠れている人もかわいそうなんです。衛生状態が悪いから皮膚病になったり半身不随になった若い女の人もいました。こういう人は配給がもらえないからヤミ市で食べ物や着る物を買っていますけど、お金がなくなったらどうなるんでしょう。心配です。人間の生活じゃないですよ。ほとんど動物。自由というのは果たして何だろうと考えてしまいました。まったく自由がなくなったら、人間といえるんでしょうか。日本は自由ですね。自由すぎるぐらい。日本の人には比べるものがないからわからないと思うけど……平和がどんなによいものか、今でも戦争をしている国があって、たくさんの農民とか普通の人たちが苦しんだり、死んでるのを忘れないでほしいです。」

ダラレさんは、キャンプに入ったとき日本人と間違えられたそうです。「働きやすいように、ズボンをはいていたから外国人と思われたんでしょうね。カンボジアの女の人はズボンをはかないから。日本人に思われたのはうれしいけど、でもやっぱり悲しい……。

今まで日本の生活の中でも感じていたし、キャンプに行ってつくづく感じたのは、向こうの子どもと日本の子どもの違いです。向こうでは紙でもクレヨンでも、とても大事に使っています。紙は白い所がなくなるまで、クレヨンもなくなるまで使っています。日本ではたいして使っていなくても、次々新しいものが出れば買っています。同じアジアなのにどうしてこんなに違うんでしょう。もっと物を大事にすることを知ってほしいです。」

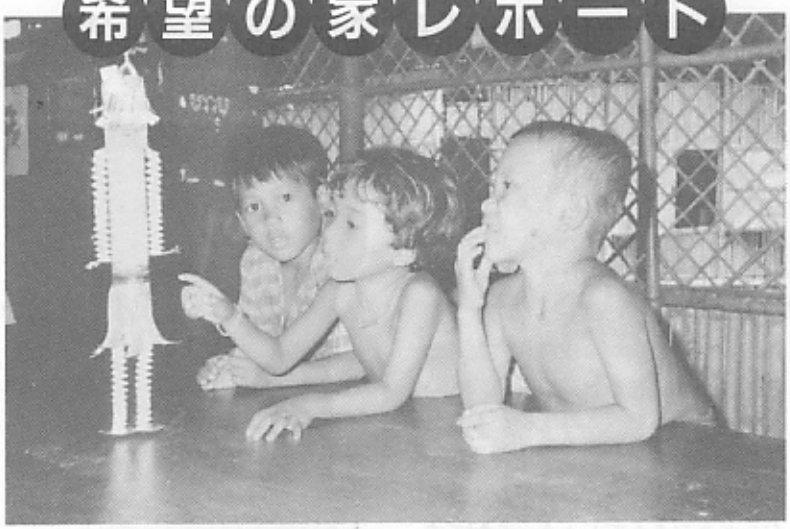
チューダラレさん

自由って何だろうと考えてしまいました

「難民というと、食糧とか着る物の援助しか普通は考えられないのに、CYRがカンボジアの将来を考えて、これからの社会をになう子どものために保育センターをつくってくれたのはとてもありがたいことです。人間のいちばん大事な時期に、ちゃんと保育園があったり、人間と人間の関わり合いがあるんですから。保育センターの中に織物や洋裁教室があるのも、子どもは見て覚えるものだから、織物はこうやって織るものなんだなあ、小さい頃見たことがある、と記憶に残ると思うし……

キャンプの中には何もありません。配給をもらって、食べて寝るだけです。お父さん、お母さんが田んぼで働いたりする姿を、子どもは見られません。だから私は、CYRの活動にとても感謝しています。今回カオイダンキャンプに行かせてもらって、とても良い経験になりました。」

希望の家レポート



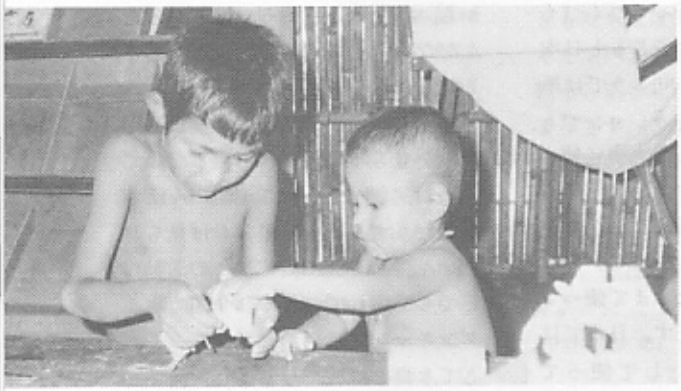
●保育園の大きい子ども（6月）

カオイダンの保育センターには、いろいろな人たちが来ます。赤ちゃんを抱いて保育室の子どもたちの様子を見ている母親。門の前で山いもやとうもろこしのゆでたのをザルにのせて売っているおばさん。小さい子どもたちを手押し車に乗せて遊ばせに来る近所のおじさん。その中でも常連は、小学生の子どもたちです。保育園に来ている子どものお兄ちゃんやお姉ちゃん。保育園の卒業生。ヨチヨチ歩きの赤ちゃん連れの三兄弟。大工さんや、織物教室で働く人の子どもたち。みんな、午前か午後の小学校のクラスがない時間を保育センターに来て過ごしています。

これらの大きい子どもの数が増えるにつれ、保育者からも、保育園の子どもたちが庭で遊べない、教材がなくなってしまうなどの苦情が出始めました。保育園の子どもにとって、大きい子どもが保育園にいるということはどういう意味があるのか、保育者にとってはどうなのか、また、小学生の子どもたちにとってはどうなのか、をみんなで考えました。

そして、6月から21区の保育園の隣にある建物が、大きな子どもたちの遊び場となったのです。この建物は今までほかの団体が図書館として使っていたもので、この中で、ボール紙の人形、風車、竹の手押し車、保育園で使うポスターの裏張り図画などの“作業”が展開されるようになりました。

保育園の子どもたちも、お兄ちゃんたちのやっていることを覗きに来て、手つきをまねて、同じように作ろうとします。今日も、20～30人の子どもたちが、工作に余念がありません。



◀お兄ちゃんのメガネ作りを手伝う一歳の子。

●丸木の渡り階段（7月）

21区の保育センターに、丸木の渡り階段ができました。燃料用のゴムの木の太いものをためておいて作ったものです。

子どもたちが見守るなか、大工さんたちが、丸木の間隔、高さを、一本一本調節しながら埋めこんでいきました。できあがるそばから、子どもたちは慎重に渡り始めました。慣れてくると、今度はチームを組んで、両端から渡り競争になりました。

平坦なカオイダンキャンプの中で丸木の階段は子どもたちの好きな遊び場になっています。

▼渡り階段で競争をする子どもたち。

●お母さんのクラス始まる（7月）

保育センターでの日々の経験の積み重ねばかりでなく、家庭でも、子どもたちをとりまく生活環境をよくしていけるよう、お母さんの“集まり”が始められました。担当は若くてやる気のある3人のカンボジア男性。近所の母親たちに事前に何度も家庭訪問をして参加を呼びかけていました。初日は母親たちが集まるだろうかと心配顔の担当者たちでしたが、予想以上に集まりはよく、お母さんたちを小躍りして迎えていました。

集まりは、1時間ずつ週3回、6週間の予定で、修了証を出すことになっています。子どものかかりやすい病気と予防、子どもと遊びなどの話とともに、おもちゃを作ったり、キャンプの中で身近にある栄養価の高い植物を使っての料理なども予定されています。

このお母さんたちがそれぞれ自分の家の近所のお母さんたちとの集まりの輪を広げていけるよう、その活躍が期待されています。

タイ人の目

祖国を知らない子どもたち

現地のタイでは、日本人スタッフと共にタイ人スタッフが5人働いています。タイ人の目には難民問題や日本はどう映っているのでしょう。

この欄では、これから何回かにわたってタイ人スタッフの感想をご紹介します。

これまで私は、多くのタイ人と同じように、難民問題にはあまり関心がありませんでした。それは、私たちは日常生活からかけ離れた問題についてはいつも考えないからです。

CYRで働くようになって初めて難民の状況や、彼らが直面している問題を知り、深く考える機会を得ました。難民の問題は人道的な立場からみても、どれほど重要であるかということに気づきました。

私はタイのCYRバンコクオフィスで働いていますが、先日カオイダンキャンプを訪ねました。話をするのはなかなか難しいのですが、カンボジア人はタイ人とあまり変わらないので親しみを感じます。

難民はキャンプにたどり着いて7～8年が過ぎても、将来の志や、人間としての尊厳もなく、ただ希望だけで毎日を生きています。その希望というのは、いつか第三国へ行って、新しいよりよい生活を始めたいということです。でも、彼らの夢はおそらく実現しないでしょう。そればかりか、国境の状況がよくないにもかかわらず、タイの政策により、近いうちに国境に送りかえされることになっているのです。

キャンプで最も印象深く、また憂鬱に感じたのは、子どもたちのことです。彼らのまなざしが無邪気であればあるほど不安を感じます。

子どもたちは、キャンプという狭い場所で生まれ育っています。カンボジア人の保育者が話す物語や歌、絵によってしか自分たちの国を知りません。子どもたちは、カンボジアの伝統を知り、誇りに思う機会をもてないのです。自分たちの未来さえ知ることができません。

私たちは、いろいろな活動を通して、子どもたちに、他の人々とどのように生活すればいいのか、またどのように今の生活を楽しめばいいかを教えていきたいと思います。

シビカ・プラコブサンティスック

カンボジア難民の人権レポート発表される

アメリカ法律委員会

今年の2月、アメリカの法律家委員会が、タイにいるカンボジア難民の人権についてのレポートを発表し、いくつかの勧告を国際社会にしています。その要旨は以下のようです。

● 国境の避難地が国境のすぐ近くにあるため、ベトナム軍の攻撃を受けやすい。とくに避難地の一つサイト2は、国境から1マイル(約1.6キロ)しか離れていない。避難地は、国境からもっと離れた場所に移すよう勧告する。

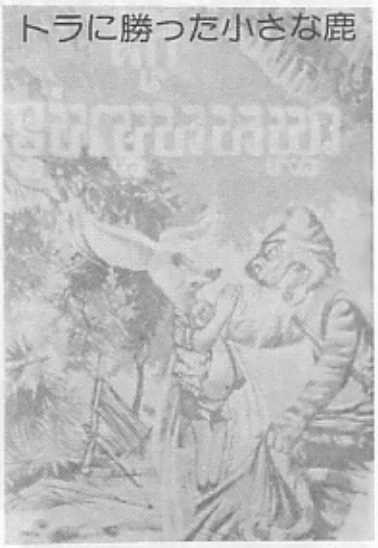
● 避難地や難民キャンプにいる人々あるいは避難地に移動する人々は、武装したカンボジアの強盗、様々な派に属するカンボジア兵士、タイ軍兵士等によりしばしば強奪、強姦の被害を受け、時には殺害されることもある。また、カンボジア難民の安全を守るためにつくられたタイの部隊の兵士による、カンボジア人拷問事件も起きている。タイは、タイ領土内で起こっている、カンボジア難民に対する犯罪について、法の執行の全般的責任を果たす用意をすべきである。

● ポルポト派の避難地サイト8では、不満をもったり、ほかの避難地へ移りたいと思っている人々に、危険な場所へ軍需品を運ぶ任務を与えたりしている。ほかの避難地へ移動を希望する人々を、タイ政府は援助すべきである。

● カオイダンキャンプの住人は国境の避難地ではなく、国境からもっと離れた安全な場所へ移ることができる選択の自由を与えられるべきである。また、どこに移されようとUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)が引き続き保護してほしい。

さらに、国境の避難地居住者の安全、保護の見地から、UNHCRの管轄権がこれらの人々にまで広げられることを勧告する。また、国境の避難地で、救援組織で働く人が夜間に駐在すれば、居住者の安全を高めるであろう。

トラに勝った小さな鹿



文／トランポン・ジョング
絵／チュウン・サムバット

——CYRでは、1980年からUNHCR、ユネスコの補助金を受け、カンボジア語の絵本などを復刻しています。この『トラに勝った小さな鹿』もその1冊です。——

お母さん鹿には、3匹の子どもがいました。1番上の子どもは大兄さん、2番目は中兄さん、3番目はおちびちゃんと呼ばれていました。

ある日、お母さんは、「私ももう年だから、これからは自分の力で食べ物を見つけなさい。」と言いました。

3匹の子どもたちは、自分の家を建てることにしました。大兄さんはなまけ者で、弟たちに竹とやしの葉で家をつくらせて、出来上がると、「ありがとう」さえ言わずに家に入って寝てしまいました。

中兄さんも、おちびちゃんに手伝わせて家を建てると、さっさと自分だけ家に入って寝てしまいました。

おちびちゃんは、誰の助けも借りずに、一生懸命働いて、固い良い木で家をつくりました。

この様子を見ていたトラは、「そろそろあの鹿たちも食べごろだ」と、まず大兄さんの家へ行きました。

「おれを家の中へ入れろ」

「いやだ、食べられてしまうもの」

「戸を開けないなら、こんな家なんか壊してしまうぞ」

と、トラは、家にとびかかり、ペシャンコにつぶしてしまいました。トラは、大兄さんをつかまえて袋に入れました。

トラは中兄さんの家も同じように壊して、中兄さんを袋に入れました。

次にトラは、おちびちゃんの家に行って、壊そうとしました。でも、びくともしません。カンカンに怒ったトラは煙突から入ろうとしました。おちびちゃんは、暖炉に火をつけ、トラのからだをすっかり燃やしてしまいました。

トラをやっつけたおちびちゃんは、兄さんたちに袋から出るように言いました。

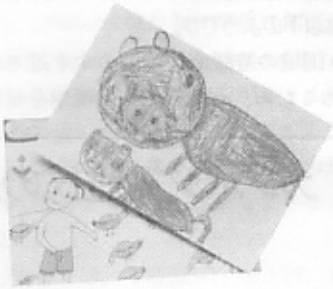
「ぼくの家はとっても丈夫で、トラも壊せなかったんだよ。トラは、ぼくがやっつけたよ」

兄さんたちは、これを聞いてとても喜び、それ以来とてもよく働くようになりました。

ネットワーク・他団体の活動紹介

障害児の描いた絵ハガキでキャンペーン

——タイ国障害児のための財団が障害児の社会参加を呼びかける



「障害児のための財団」(代表ソムジン・ソーントン）は、1983年バンコク市内にある病院で活動を始め、86年7月に財団組織になりました。

主な活動は、①障害児に対する理解を一般の人々に広めるためのPR。および障害者に関する法律をつくるための運動。②農村の障害児の実態調査と研究。③バンコク市内で実験学校の運営と、人材の養成、教材の開発を行なっています。

日本での連絡員になっているのは、CYR会員でもある大阪・高槻市の井上博夫さん。

井上さんは、今年の2月にバンコク市内で聞いた障害児の美術作品展を日本でも開くため、全国の国際交流や障害者団体に呼びかけました。そして、8月に、大阪で作品展が実現、11月12日～18日には、東京・立川市にある立川駅前ビルで、開催が予定されています。そして、さらにほかの都道府県での開催もめざしています。

この作品展と並行して、障害児が描いた作品を絵ハガキにして売り出しています。様々な障害をもつ子どもが描いた絵は、色の使い方がユニークで、生活を生き生きと描いてます。（6枚1組400円）

CYR事務所でもこの絵ハガキセットを取り扱っています。

詳しいことをお知りになりたい方は、直接井上さん（Tel 0726－95－0463）にご連絡ください。

現地(タイ)スタッフ募集

☆幼い難民を考える会(CYR=Caring for Young Refugees)とは

1979年　数十万人ものカンボジア難民がタイに流出し、どこの難民キャンプも、飢えと不安におびえる人々で溢れ、世界各国から、食糧と医療の緊急援助が始められました。

1980年2月　幼い難民が難民キャンプという特殊な環境のなかでも、人間らしく、健康な成長ができるようにと、「幼い難民を考える会」を設立しました。

設立以来、海外の活動拠点を、タイのカンボジア難民を収容するカオイダンキャンプに置いて、活動を続けています。子どもが健やかに成長をするためには、まわりの大人が自立していなくてはいけません。

CYRでは、保育園と、そのまわりに親や大人のために織物、洋裁、木工の技術訓練の教室を設けました。配給をもらって生活するだけの難民キャンプにあって、子どもたちが、親の働く姿を見ながら成長できるようにと考えたものです。

カオイダンキャンプ内では

1　保育園の運営
2　保育者養成、教育
3　技術訓練と製作　織物
　　洋裁
　　木工
4　識字教育
5　図書室運営

を行なっています。

この保育園と教室および図書室を合わせたものを保育センター「希望の家」と名付けています。保育センターを運営するのはカンボジア人で、側面からの援助をするのが日本人です。

☆現地スタッフ募集

●**主な仕事**　キャンプを自由に出入りできない難民に代わって資材の調達をし、各プロジェクトが順調に進むための相談役となります。

またキャンプを管轄しているUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)やキャンプ内で活動している世界各国の団体との連絡、打ち合わせにあたります。

●**タイでの生活**　カオイダンキャンプから車で40分ほど離れた町アランヤプラテートにある民家の宿舎で共同生活をしています。朝6時起床、8時半から午後4時頃までキャンプで仕事、宿舎に帰ってから報告書の作成などがある場合もあります。

●**条件**　①1年中30度を超す気温なので健康な方。②英語で仕事のできる方(英語での折衝、英文報告書の作成等)。③できれば年内に出発できる方。

●**期間**　1年以上。

☆国内ボランティア募集

1　パソコンの打ち込みをお手伝いしてくださる方
2　11月8日(日)のバザーの売り子さん
3　英文を翻訳してくださる方

§現地スタッフご希望の方、国内ボランティアとして手伝ってくださる方、いずれも下記事務所までお電話ください。

☆会へのお誘い

幼い難民を考える会はひとりひとりの会員の方によって支えられています。あなたも会員になりませんか？　そして、あなたのお友だちにも声をかけてみませんか？

会　　費　1か月500円
郵便振替　東京1－36227
口 座 名　幼い難民を考える会

までお申し込みください。

幼い難民を考える会　〒150 東京都渋谷区広尾4-3-1 Tel. 03-499-1226

ご寄付いただいた方々

1987年3月～8月

（敬称略）

北海道
帰山ひとみ　（札幌市）
坂本　静子　（〃）
札幌聖心女子学院　（〃）
小川　ヨシ　（北見市）
鍛冶　睦美　（士別市）

青森県
佐藤美千代　（青森市）

岩手県
浅見　文子　（花巻市）

秋田県
秋田ビューホテル　（秋田市）

福島県
郡山ビューホテル　（郡山市）

茨城県
関口　博美　（牛久市）
佐藤　生子　（北茨城市）
田之室光子　（土浦市）
稲泉　淑子　（取手市）
土谷美知子　（稲敷郡）
小菅睦・篤・聡　（筑波郡）
山本　満喜　（鹿島郡）

栃木県
三橋　恵子　（下都賀郡）
那須ビューホテル　（那須郡）
小玉　恭子　（芳賀郡）

群馬県
高崎ビューホテル　（高崎市）
藤田喜代子　（〃）
東別所B地区　（太田市）
後藤　京子　（勢多郡）

埼玉県
伊藤　佐行　（春日部市）
木村　稔子　（熊谷市）
関　政弘　（所沢市）
菅　孝　（飯能市）
小野寺里美　（北葛飾郡）
石山　民子　（入間郡）

千葉県
梅原　正美　（千葉市）
加藤　くみ　（〃）
山極　勝子　（〃）
三輪美枝子　（〃）
林　雅雄　（市川市）
国府台聖愛乳児園　職員一同　（市川市）
成田ビューホテル　（成田市）
矢ケ部留美子　（木更津市）
川口　昌宏　（船橋市）
関根　錦　（〃）
服部　三郎　（松戸市）

東京都
井ノ部百合子　（荒川区）
中村　克夫　（板橋区）
伊藤　恭子　（大田区）
緒方　貞子　（〃）
鈴木　重子　（〃）
中村　育民　（〃）
吉田　武陛　（〃）
石塚　剛　（〃）
フライングバード'84　（〃）
高橋　静子　（品川区）
岡崎　光枝　（〃）
宇都宮紗智子　（〃）
尾平佳津江　（渋谷区）
坂本　恵子　（〃）
安藤　勇　（新宿区）
林　孝子　（〃）
湯川れい子　（〃）
石井じゅん　（〃）
田中　淳子　（〃）
桑波田ひとみ（〃）
永福町教会婦人会　（杉並区）
窪田輝代子　（〃）
田島真理子　（〃）
善福寺子供の家（〃）
大沢せおり　（〃）
近藤　典子　（〃）
田村　和凡　（〃）
村上　芳子　（〃）
原田由紀枝　（〃）
松崎　秋夫　（墨田区）
福島　歌子　（〃）
笠原　恭　（世田谷区）
小林智恵子　（〃）
斎藤　瑞子　（〃）
豊永けい子　（〃）
若杉　佳子　（〃）
澤田　祐子　（〃）
堀明彦・容子　（〃）
安藤知代子　（〃）
栗野美代子　（〃）
浅草ビューホテル　（台東区）
山路　圭　（中央区）
大石　敦子　（豊島区）
小島　礼子　（〃）
飯沼ふみ子　（中野区）
大竹三千子　（〃）
村山みつ子　（〃）
古田　艶子　（〃）
小倉　松枝　（〃）
谷口　洋子　（〃）
出原　保夫　（練馬区）
早水　輝好　（〃）
後藤今日子　（〃）
勝田　薫　（文京区）
暁星学園幼稚園　（千代田区）
クラウス・ルーメル（〃）
麻布教会　（港区）
麻布みこころ幼稚園　（〃）
太田　和　（〃）
木村　久子　（〃）
菊野　正隆　（〃）
久保田伸子　（〃）
聖心女子学院さつき会　（〃）
聖心女子専門学校　（〃）
畠中ルイザ　（〃）
原山　敦史　（〃）
三島　輝子　（〃）
吉行　章子　（〃）
長島　千枝　（〃）
藤田　章子　（〃）
竹内尚人・恵利子・尚興・瑞穂（目黒区）
グループ虹　（〃）
駒場幼稚園　（〃）
平塚　眞・礼子・洋一・美保子・浩二（〃）
武藤　好子　（立川市）
堀内俊太郎　（多摩市）
佃　多恵　（〃）
幸田　成人　（調布市）
渡辺　典子　（三鷹市）
佐久間羊子　（武蔵野市）
シスターメリー永島　（〃）
熊谷ことぢ　（青梅市）
佐藤　潮　（〃）
グループ豆の木　（田無市）
柳瀬　仰子　（大島町）
飯尾香織・美園　（町田市）
佐藤　有希　（〃）

神奈川県
佐野　克行　（横浜市）
平山　知学　（〃）
近藤　セキ　（〃）
多田寿美子　（〃）
萩原　久子　（横浜市）
藤井　節子　（鎌倉市）
益子　薫　（〃）
ドルカスベビーホーム　（綾瀬市）
黒木　慶子　（川崎市）
竹中　節　（〃）
高橋多恵子　（〃）
長田　邦稲　（〃）
伊藤　恵子　（〃）
高橋　良夫　（〃）
森戸　潔　（〃）
湘南みこころ会（茅ヶ崎市）
ともしび会　（〃）
PINY　（藤沢市）
川村　栄子　（〃）
大東香代子　（〃）
梅ヶ丘子どもの家　（大和市）

山梨県
雨宮　利雄　（東八代郡）

新潟県
岡部　清　（新潟市）

石川県
千保　紀子　（金沢市）
岩本　玉陽　（松任市）

静岡県
市川　雅己　（静岡市）
南荘宏・敬子　（〃）
自然食品健康友の会　（熱海市）
鈴木　真樹　（浜松市）
松村　鈴恵　（富士宮市）
伊豆海保育園職員一同　（賀茂郡）
不二聖心女子学院　（裾野市）

愛知県
井上　道雄　（名古屋市）
久野ひろ子　（〃）
楠本　千穎　（春日井市）
関口　紘子　（小牧市）
高橋　仁見　（豊川市）
伊藤　洋子　（海部郡）
伊良湖ビューホテル　（渥美郡）

三重県
奥山　卓司　（尾鷲市）

京都府
伊崎　佳明　（京都市）
東　あかね　（〃）
亀井　正子　（〃）
新道　雪子　（〃）
谷本　千里　（〃）
越野　敬子　（長岡京市）
国際ソンタクラブ京都I　（宇治市）

難民援助宮津カトリックの会　（宮津市）
稲本　智　（向日市）

大阪府
伊藤　峰明　（大阪市）
吾野　佳子　（〃）
山本　智紀　（〃）
城星学園小学校　（〃）
桐原　充子　（茨木市）
菊地　恵子　（交野市）
野老山田鶴子　（堺　市）
今村　眸　（吹田市）
木村　育世　（高槻市）
大杉美耶子　（豊中市）
三浦　正枝　（富田林市）
太田　憲治　（守口市）

兵庫県
神戸平安教会婦人会　（神戸市）
神戸市立舞子中学校　（〃）
長野　律子　（〃）
宮前　峰子　（〃）
真野比奈子　（〃）
稲畑美喜子　（芦屋市）
石渡　要蔵　（〃）
聖ヨゼフ布教修道女会　（尼崎市）
小川　正子　（〃）
鍵山世都子　（西宮市）
宮沢　明子　（〃）
辻　孝子　（〃）
西宮一麦教会　（〃）

奈良県
大方　せつ　（生駒郡）

岡山県
薮井由紀子　（岡山市）
広野　豊満　（倉敷市）
山口　裕代　（総社市）

広島県
広島教会まきば会　（広島市）
広島教会青年会　（〃）
田川　泰資　（〃）
西川　礼子　（安芸郡）

島根県
吉廻　敬子　（出雲市）

山口県
萩市保育連盟保母会　（萩　市）
藤井　操　（光　市）

香川県
寒川　律子　（高松市）

高知県
池沢　潤子　（高知市）

福岡県
福岡女学院中高学校　（福岡市）
木上　絹枝　（〃）
安藤　玲子　（〃）
大垣　洋子　（〃）
荒川　幸子　（〃）
福岡県立小倉東高等学校　（北九州市）
高瀬　優子　（〃）
古賀　徳子　（久留米市）
古賀山敏康　（遠賀郡）
伊藤　史子　（粕屋郡）
徳永　倫子　（大牟田市）

大分県
藤河　ひさ　（大分市）

宮崎県
佐田恵子・薫　（日向市）

物品を寄せられた方々

1987年3月～8月
（敬称略）

北海道
中島　芳貞　（札幌市）
荻野　英夫　（〃）

秋田県
長谷川ヤス　（秋田市）

福島県
渡辺　弘子　（双葉郡）

茨城県
河口　久子　（取手市）
稲泉　淑子　（〃）
松添　仁　（新治郡）
川口　君子　（稲敷郡）

栃木県
小玉　恭子　（芳賀郡）

群馬県
佐藤久美子　（前橋市）
後藤　京子　（勢多郡）

埼玉県
浅沼　恵子　（浦和市）
反町　朋子　（〃）
打越さく良　（〃）
一志　悦子　（岩槻市）
吉田　信子　（大宮市）
岡田　和子　（川越市）
熊谷カトリック教会　（熊谷市）
本田　ツネ　（志木市）
八重ゆかり　（所沢市）
酒井　時子　（鳩ケ谷市）
島崎友四郎　（飯能市）
高橋　瑞枝　（桶川市）
緑川　瑞彦　（桶川市）
小宮みち代　（和光市）
佐藤　きく　（〃）
岡田　米子　（蕨　市）
本間　雅彦　（新座市）
中島　孝枝　（北葛飾郡）
小野寺里美　（〃）
金子　節子　（南埼玉郡）

千葉県
柵原　正美　（千葉市）
加藤　くみ　（〃）
森永　玲子　（〃）
植田智加子　（〃）
鬼崎　貞子　（〃）
成瀬　昌美　（〃）
阿尾るみ子　（〃）
和田　強　（〃）
米山緋紗子　（柏　市）
田村　茂代　（〃）
永沢　照子　（〃）
曽我　京子　（船橋市）
関根　錦　（〃）
新村　洋子　（松戸市）
遠藤　清司　（印旛郡）
佐々木秀子　（〃）
合原　隆　（習志野市）

東京都
時枝　裕子　（足立区）
五十嵐寿子　（〃）
大関　芳子　（〃）
乾　晴美　（〃）
佐藤美智子　（〃）
佐藤　京子　（〃）
本房　優子　（〃）
横山　洋子　（〃）
小沢　則江　（〃）
高田梱包　（〃）
笠原　和子　（荒川区）
雨宮　はま　（〃）
磯　泉　（〃）
星野　悦子　（〃）
小倉　雪枝　（〃）
ホーコク商会　（〃）
中村　克夫　（板橋区）
飯塚　孝子　（〃）
石橋　周介　（〃）
角田　恵　（〃）
片山　和恵　（〃）
鈴木みどり　（〃）
鈴木　恵子　（〃）
荻原　珠代　（〃）
根本　昌子　（〃）
小貫美和子　（〃）
中嶋ひさよ　（江戸川区）
吉田　文子　（〃）
堀田　武史　（〃）
関口　順子　（〃）
鳥海　保子　（大田区）
三好　勝　（〃）
荒木　啓幸　（〃）
伊藤みちい　（〃）
小国千代子　（〃）
佐藤かおり　（〃）
瀧川　嘉子　（〃）
田中　康子　（〃）
藤倉　芳　（〃）
仁科　豊子　（〃）
森　薫　（〃）
森井錠太郎　（〃）
青木　桂子　（〃）
石田　明子　（〃）
新井　純子　（葛飾区）
浅井まり子　（〃）
金坂　ゆき　（〃）
佐藤　秀則　（〃）
藤田　久子　（〃）
西村佳津子　（〃）
仲村　芳吉　（北　区）
池田　幸恵　（〃）
国保　征子　（〃）
月花　正子　（〃）
小林　茂子　（〃）
柴田　良子　（〃）
杉村　宏子　（〃）
高橋　容子　（〃）
対馬恵美子　（〃）
久住　清水　（〃）
藤原　恭子　（〃）
大沢　昭子　（江東区）
黒田　節子　（〃）
菅原真光人　（〃）
長谷部公子　（〃）
羽山真理子　（〃）
芳野　礼子　（〃）
椙三栄堂　（〃）
高橋　静子　（品川区）
中島　紘子　（〃）
れんげ会　（〃）
鈴木　君代　（〃）
浅野　真理　（〃）
石渡　福子　（〃）
櫻本　真澄　（〃）
狩野昇作・知子　（〃）
菊地千佐子　（〃）
坂本伊左雄　（〃）
新宅　忠子　（〃）
関口加代子　（〃）
田平　容子　（〃）
山岸　早苗　（〃）
渡辺りゅう子　（品川区）
坂本　政隆　（〃）
川上　清文　（〃）
吉田　和子　（〃）
聖心会第一修道院

(渋谷区)
聖心会第二修道院
(〃)
聖心会第三修道院
(〃)
聖心インターナショナル
スクール父兄 (〃)
植田 瑞子 (〃)
塩澤 会梨 (〃)
松岡和子・玲子 (〃)
山崎さよ子 (〃)
横井 和子 (〃)
伊藤止女子 (〃)
和泉 昭子 (〃)
岩本 磯子 (〃)
小林 祐子 (〃)
小島 三雄 (〃)
林 香代子 (〃)
森本みなみ (〃)
田代 泰子 (〃)
毛利 泰子 (〃)
内野 弘子 (〃)
栩木 浩司 (〃)
笠原千寿子 (〃)
小沢 田理 (〃)
外山 寛子 (〃)
中林 昌子 (〃)
曾田 暁美 (〃)
尾平佳津江 (〃)
川嶋 茂嬢 (〃)
鵜沢 知子 (新宿区)
斉藤 隆子 (〃)
林 孝子 (〃)
植島 照雄 (〃)
日本キリスト教畑外医療
協力会 (〃)
日下 英子 (〃)
日比谷寿美子 (〃)
正木 良平 (〃)
水上靴店 (〃)
吉田 礼子 (〃)
ロンドン靴店 (〃)
長沢千恵子 (〃)
石井じゅん (〃)
中島 明子 (〃)
原元真沙美 (〃)
櫛淵 豊子 (〃)
永戸 恭子 (杉並区)
松浪 美子 (〃)
善福寺子供の家
(〃)
田中 なつ (〃)
江里口信子 (〃)
窪田輝代子 (〃)
鈴木裕紀子 (〃)
高島 純子 (〃)
鳥栖 良子 (〃)

青柳真智子 (杉並区)
飯島 絢子 (〃)
加藤 武生 (〃)
川崎恵美子 (〃)
金森 洋子 (〃)
佐藤 澄子 (〃)
関口 順子 (〃)
富樫 紀子 (〃)
藤野美知子 (〃)
守分知恵子 (〃)
中村 七重 (〃)
浅沼 節子 (〃)
原田 奈緒 (〃)
浅賀 要子 (世田谷区)
小沢 篤子 (〃)
栗野美代子 (〃)
高田喜久子 (〃)
津田 紋子 (〃)
石原 晶世 (〃)
上野美代子 (〃)
河村なぎさ (〃)
桑原 彰 (〃)
小林 敏子 (〃)
小出 静子 (〃)
沢田 怜子 (〃)
鈴木 道子 (〃)
杉村 佑子 (〃)
高見 公雄 (〃)
高部 恵里 (〃)
高原 瑛子 (〃)
戸川 正悟 (〃)
中島佳代子 (〃)
西田 睦代 (〃)
松下 洋子 (〃)
増田 芳明 (〃)
真籠 幸子 (〃)
杉崎靴店 (〃)
寺岡 玲子 (〃)
三上 知子 (〃)
森田 信子 (〃)
柳沢由美恵 (〃)
山本 真理 (〃)
山下志津子 (〃)
吉田 雪枝 (〃)
中島 静子 (〃)
小川キミ子 (〃)
小林 明子 (〃)
高島 文子 (〃)
伊藤美奈子 (〃)
倉本美智子 (〃)
山内 典子 (〃)
溝口 恵美 (〃)
川崎恵美子 (〃)
武藤 愛子 (〃)
黒田 佳子 (〃)
宗像 幸子 (〃)
笹川とし子 (台東区)

高島 哲夫 (千代田区)
I・リバス (〃)
石原小枝子 (〃)
川口 伊津 (〃)
市谷 富治 (〃)
居場 靖子 (〃)
日本金属 (〃)
辰濃 和男 (中央区)
山路 圭 (〃)
井上 京子 (〃)
菊地 明美 (〃)
木村八重子 (〃)
㈱シンワ (〃)
鈴木 ヨシ (豊島区)
川島 文子 (〃)
鈴木 千代 (〃)
今野富貴子 (〃)
原 加賀子 (〃)
力石新太郎 (〃)
馬場貴美子 (〃)
星野幸枝子 (〃)
おんだ靴店 (豊島区)
戸田ハルミ (中野区)
阿部 幸子 (〃)
石田 記子 (〃)
伊藤 美子 (〃)
倉繁 明美 (〃)
鈴村 三知 (〃)
大河内俊雄 (〃)
長谷川いく子 (〃)
舟山 明男 (〃)
星野 トシ (〃)
中野クリニック (〃)
ヒューマンウェア研究所
(〃)
高田 恵美 (練馬区)
早水 輝好 (〃)
後藤今日子 (〃)
湯浅 健 (〃)
上原 輝也 (〃)
大谷 節子 (〃)
加賀 玉樹 (〃)
金田 淑子 (〃)
苅部 一男 (〃)
阪本美知子 (〃)
佐藤 広子 (〃)
瀬長 弘美 (〃)
田中悠紀子 (〃)
高野 紀子 (〃)
高田 博行 (〃)
土川 隆久 (〃)
松崎 博善 (〃)
吉田 和子 (〃)
中村寿美子 (〃)
柳原 和子 (〃)
佐藤 明 (〃)
細井 慶子 (〃)

古山 佳子 (文京区)
青井 千恵 (〃)
深水 正勝 (〃)
上呼 弘美 (〃)
長谷川章華 (〃)
藤本紀世子 (〃)
渡辺 純子 (〃)
藤本久仁子 (〃)
太田 和 (港区)
木村 久子 (〃)
聖心会レターレ修道院
(〃)
聖心女学院みこころ会
(〃)
伊吹 佑子 (〃)
和田 令子 (〃)
小森 七郎 (〃)
原 磯子 (〃)
福住 帛子 (〃)
箭内 節子 (〃)
イクバル・H・
アリモハメッド (〃)
池田 勝子 (〃)
飯田 征美 (〃)
池田 智子 (〃)
栢木 佳子 (〃)
久能木 光 (〃)
黒川 百合 (〃)
国分 昌子 (〃)
田中 美子 (〃)
高木 愛子 (〃)
村井 邦子 (〃)
夏目 和子 (〃)
渡部真樹子 (〃)
堀田 潤子 (〃)
西野 直子 (〃)
斉藤阿也子 (〃)
岡嶋 正雄 (〃)
森永 兼一 (〃)
崎川由美子 (〃)
永田 典子 (〃)
林田 あき (〃)
早川 京子 (〃)
Diane Eggleton
(〃)
Marie Kuexenah
(〃)
Morton (〃)
島谷司奈子 (目黒区)
鈴木 紀子 (〃)
田所正子・健太郎
(〃)
飯田 光子 (〃)
多木 朝子 (〃)
山澤百合子 (〃)
佐藤万友美 (〃)
須田 正真 (〃)

高橋　悦哉　（目黒区）
土井　正三　（　〃　）
早出　高子　（　〃　）
奥山　久代　（　〃　）
深町　陽子　（　〃　）
藤本久仁子　（　〃　）
福田　辰治　（　〃　）
田巻　恭子　（　〃　）
斉藤　友子　（　〃　）
鎌田　靖子　（　〃　）
深町　美由　（　〃　）
高橋　泰子　（　〃　）
島田キヌ子　（　〃　）
佐藤　　潮　（青梅市）
挽野　立身　（国立市）
小川　柊子　（小金井市）
本木　由香　（　〃　）
菅原　潤子　（　〃　）
関山　道子　（国分寺市）
有江　　恵　（小平市）
堀内　ツル　（　〃　）
石黒かおり　（多摩市）
平野　武男　（調布市）
青木　桂子　（　〃　）
浅沼慶江子　（　〃　）
石田　明子　（　〃　）
楠原喜代子　（　〃　）
本橋　　栄　（日野市）
大澤　恭子　（町田市）
桑原美樹子　（三鷹市）
松平やす子　（武蔵野市）
中原リザ子　（　〃　）
芝野　雅一　（八丈島）

神奈川県

田島　敏子　（横浜市）
多田寿美子　（　〃　）
福田　明子　（　〃　）
黄　　崇子　（　〃　）
原　　和子　（　〃　）
御子柴能子　（　〃　）
合木　節江　（　〃　）
井上真理子　（　〃　）
岩本　　彰　（　〃　）
会木　垂子　（　〃　）
北　千枝子　（　〃　）
桑名　好治　（　〃　）
グループ友　（　〃　）
内藤美代子　（　〃　）
佐脇　幸代　（　〃　）
嶋　　正子　（　〃　）
関　　和子　（　〃　）
浜田　秀子　（　〃　）
萩本　陽子　（　〃　）
金田　淑子　（　〃　）
真鍋　洋子　（　〃　）
佐野　克行　（　〃　）
高橋　周子　（　〃　）
津野　喜一　（横浜市）
小島　美子　（　〃　）
小林しめ子　（鎌倉市）
藤井　節子　（　〃　）
黒木　慶子　（川崎市）
伊藤　恵子　（　〃　）
大野　敏子　（　〃　）
萩原三佐子　（　〃　）
熊沢　節子　（　〃　）
中野　康子　（　〃　）
野崎　利一　（　〃　）
浦本三穂子　（相模原市）
神谷　博子　（　〃　）
越島　陽子　（逗子市）
竹中　恭子　（茅ケ崎市）
竹中御一同　（　〃　）
東川　悦子　（平塚市）
古藤　礼子　（藤沢市）
平　　貴仁　（　〃　）
増田貴代子　（　〃　）
都賀　潔子　（　〃　）
藤岡　チカ　（　〃　）
大石　京子　（　〃　）
小峰　　（三浦市）
宇都宮ゆり江　（大和市）
遠藤家子供達
（横須賀市）
秋沢　ヒロ　（　〃　）
今井野梨子　（中　郡）

長野県

吉田比呂美　（長野市）
遠藤　道子　（北安曇郡）

新潟県

中林　虎三　（新潟市）
星　　浩　（　〃　）

富山県

出口　教子　（富山市）

石川県

岩本　玉陽　（松任市）

静岡県

青井　千恵　（御殿場市）
平田ひろ子　（三島市）

愛知県

宮本　明子　（名古屋市）
宗村　節子　（　〃　）
伊藤はつ子　（　〃　）
織田　美子　（岡崎市）
豊田婦人ボランティア
（豊田市）
植田佐規子　（愛知郡）

三重県

宇仁田愛子　（伊勢市）

京都府

谷本　千里　（京都市）
西澤　　豊　（　〃　）
伊崎　佳明　（京都市）
古賀　朋子　（長岡京市）

大阪府

徳村　朋子　（大阪市）
菊地　恵子　（交野市）
今村　　眸　（吹田市）
永戸　美紀　（枚方市）

兵庫県

加藤喜代子　（神戸市）
景山佐和子　（　〃　）
山縣　晴代　（　〃　）
仲野　好重　（尼ケ崎市）
古沢　律子　（加古川市）
辻　　孝子　（西宮市）

奈良県

高橋　敦子　（高市郡）

岡山県

赤堀　初江　（苫田郡）

広島県

田川　泰資　（広島市）
金尾アツ子　（三原市）

山口県

河合　郁子　（宇部市）

香川県

寒川　律子　（高松市）
亀井　　伸　（香川郡）

福岡県

蓮尾　エリ　（福岡市）
大垣　洋子　（　〃　）
古賀　徳子　（久留米市）
森永　玲子　（宗像市）
古賀山敏康　（遠賀郡）

熊本県

大津山かず子　（熊本市）

沖縄県

石川　繁正　（石川市）

ご協力ありがとう
ございました。

CYRきのう・今日

タイ・カオイダン

4月13～16日
カンボジアのお正月。キャンプの中がきれいにはき清められ、家々は色紙で作られたお正月飾りで入口や窓が飾られ、華やいだ雰囲気となった。特別にジュースやコーラの持ち込みが許可された。

4月17日
不法入居者175名が国境の避難地サイトBへ送り返される。

5月7～12日
125名の子どもが歯の検診を受ける。治療を要する子ども13名。

5月
布の持ち込みの制限が厳しくなったため、織物の作品を洋裁教室でも使うようにする。

5月末
保育園で配っているおやつが一時中止になる。このため子どもの出席率が下がる。

6月
保育園全体に刺激を与えるため、保育者の配置替えが行なわれる。この結果、園に活気がでた。

7月3日
パナニコムキャンプ（第三国定住が決まった人の一時滞在施設）に長く滞在していて、第三国定住の望みのないカンボジア人152名がカオイダンキャンプに送り返される。

7月
タイ軍による不法入居者の取り締まりが厳しくなる。夜間だけでなく昼間仕事場にまで来て、名札をチェックしている。

7月6日
UNBRO（国連国境救援機関）のタイ・カンボジア国境避難地の人口調査が行なわれる。264,599人。

8月5日
ビスケットのおやつ再開される。

国内

4月26日
第15回バザー。ダンボール箱600個分もの品物が集まった。小雨にもかかわらず、たくさんの方が見え、収益は、2,012,193円と過去最高になった。

5月
訪問ボランティアと国内プロジェクトの打合せをそれぞれ月1回定期的に開くことにする。報告書の書式、国内活動の進め方、日本語の勉強より話相手になること、などを話し合う。

5月17日
第7回定期総会が開かれる。

5月19日
第33回月例会ひまわり。開発教育教材をみて。

5月23日
京都府宮津市の暁星高校寮で、保育センターのビデオを使って活動報告。

5月24日
大阪の山西記念会館で、竹の子の企画により活動報告会。
京都で「難民援助宮津カトリックの会」の主催により活動報告会。

7月18日
第35回月例会ひまわり。今年後半の予定。私たちの日常生活と世界とはどのようにつながっているかを考える機会をもつことにする。また、生活の問題に取り組んでいる他の団体との交流をはかる。

●11月8日(日)は第16回バザーです。当日のお手伝いのご協力よろしくお願いします。

☆規約の一部が改正されました

5月17日の第7回総会にて、理事の定数の改正が承認されました。

今まで理事は10名以内（会規約第3章役員第11条〈役員の種別〉）と決められていましたが、会員数の増加、関西地区の活動活発化、現地活動の充実、の3つの理由から、多くの会員の声を理事会に反映できるよう、理事定数を15名に増やすことになりました。

現在の理事は次の11名の方々です。いいぎりゆき、川村フク子、見坊和雄、佐藤恒夫、関口晴美、中村昊子、広戸直江、深水正勝、松岡玲子、箭内祥周、山極小枝子。

〈編集後記〉

19号の発行遅くなりました。私事ですが、5月に2人目の子どもが生まれ、しばらく動きがとれなくなっていました。すみません。まだ一人では何もできない赤ん坊を抱きながら、これが戦争中だったらどんなにたいへんだろうと、戦渦の国の母親を思わずにはいられませんでした。

9月から、電話相談と広報の担当として事務局に入りました。どうぞよろしく。（石井じゅん）